

新潟工科大学大学院 工学研究科博士課程（前期・後期） 各種ポリシー

【建学の精神】ものづくりの視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成する

ポリシー	内 容
アドミッション・ポリシー	<p>本学は「ものづくりの視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成する」ことを建学の精神として掲げています。大学院工学研究科では、この精神に基づき、日進月歩の技術革新を担う高度な専門性を要する職業に従事する人材の育成と、現在研究開発に従事している社会人の再教育を行うことを目的としています。これらの人材教育には、修士あるいは博士号取得者として求められる専門知識・技術の修得はもとより、ものづくりの現場で必要とされる人間的能力の伸長が不可欠です。企業の組織においては、学部や高等学校等を卒業した技術者の指導を行いながら、プロジェクトをまとめ上げる必要があります。プロジェクトチームを率いつつ、自ら課題とその解決方法を発見し、それを実行することができる技術者が求められているのです。このような「リーダーシップがあり実践的に貢献できる技術者」となるため、次の5つの能力伸長を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の「専門力」</li> <li>・自ら課題を発見する「課題発見力」</li> <li>・課題に対する解決方法を見出す「創造力」</li> <li>・実際に行動する「実践力」</li> <li>・リーダーシップに不可欠な「コミュニケーション力」</li> </ul> <p>これらの素養を身につけるため、入学者に期待する人材像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりに強い関心があり、専門性を深めたい者 本研究科に設定した各教育研究分野の基礎知識を持ち、その専門知識・技術の深化を求める者</li> <li>・新たな技術を自ら開発したい者 各教育研究分野を横断して知識修得可能なカリキュラムを活用し、発想力と創造力を養うことで今までにない革新的な技術の開発を目指している者</li> <li>・社会に出て実践的に活躍したい者 日常的な指導教員、学部生または企業とのディスカッションを通じて、コミュニケーション能力やリーダーシップ等の企業のプロジェクトのリーダーとなる素養を積極的に身につけたい者</li> </ul> <p>さらに、博士後期課程の入学者は、社会人の専門力向上の場であることから、企業における研究開発力の向上を求める者についても、人材像として期待しています。</p>
教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>本学は学部と大学院との一貫性を基本的な構想としており、既設学部の教育研究成果が大学院の教育研究へ展開・発展し、さらに大学院での教育研究をより充実させ、発展させることを目指しています。</p> <p>本専攻は既設学部を基盤としており、教育課程を次のように編成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合性を重視した教育・研究を行うため、高度な基礎学力と深い専門知識を養成する専門科目・専修科目、さらに高度な技術者に相応しい素養を養成する共通科目</li> <li>・高度な専門的基礎力と方法論を涵養する特別演習</li> <li>・研究課題について研究を行い高度な専門性を涵養する特別研究・特定研究</li> </ul> <p>これに加え、他の専門分野の科目や、企業の第一線で活躍している技術者や研究者による特別講義の受講により、社会における技術動向を修得すると共に幅広い視野を育成していきます。更に、多くのディスカッションや学部生と連携した研究活動などを通じて、コミュニケーション力やリーダーシップを育成していきます。</p> <p>また、博士後期課程では特定研究を重点とし、学位論文の内容に関する原著論文を課すとともに、国際会議での発表を通じて国際的視野の涵養を図ります。</p>
修了認定・学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)	<p>本学では、修士あるいは博士号取得者として求められる専門知識・技術の修得と、ものづくりの現場で必要とされる人間的な能力伸長に力を注ぎ、「リーダーシップがあり実践的に貢献できる技術者」の育成を目標としています。加えて博士後期課程では、企業において研究開発を自ら進め、企業を活性化することのできる専門知識・技術を修得することを目標としています。このことから、本学が定める修了要件を満たし、次の能力を修得した者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教育分野において求められる「専門力」</li> <li>・自ら課題を発見することができる「課題発見力」</li> <li>・課題に対する解決方法を見出す「創造力」</li> <li>・身につけた知識や技術を駆使して課題を解決する「実践力」</li> <li>・プロジェクトをリーダーとしてまとめ上げ、メンバーを指導していくために必要な「コミュニケーション力」</li> </ul>